

2025年度

大学院文学研究科博士課程後期3年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

筆記試験 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

成績	績
----	---

(1) 今後の研究計画

(2) 研究の意義と目的

(2) 研究の意義と目的

一、次の史料を読んで、以下の問いに答えなさい。

此書は、交易を用て、他国の金銀銅を絞取、我国へ取込て国力を厚くし、国家を永久に末広く、富と貴とを並び遂させん仕方の筋道を、明白に説述たる書なり。其交易の至り極る所は、海洋渉渡を自在にするにあり。此故に海洋渉渡は、則戦場に臨と等し。大利を得るは則人戦に討勝て郡国を得ると等し。

先哲も此真理爰にある事をしれども、経史の意に背く故歟、売買の道は、商賈の所業にして、民と利を争ふ道なれば、武家に於て決てせざる所なり。杯いふて、秘て説ず。庸徒是を聞き、一図に凝塊り、天明癸卯以後二、三ヶ年の如き、関東奥羽大飢饉到来、殊に奥羽二ヶ国は甚しく、売買の食物絶果、手飼の牛馬犬鶏の類を喰尽し、人々相喰といへども救助の天命到来せず、国民凡二百万人余餓死せし事は、人々俱にしる所なり。

於て是前にいふ官の交易あらば、豊作の国々より穀粟及一切の食物になるべき物を何なりとも買取、船舶を用て渡海運送して、奥羽二ヶ国の要地々々に備置、遍く広く交易すれば、庶民末々まで行亘り、一人にても餓死する者もあるまじ。(中略)

船舶を用て万国へ渡海交易し、自然到来の大利を得る道を建立し、民に教へ国家を豊饒になしたるは、欧羅巴大洲を以天下第一とし、亜夫利加、亜細亜、亜墨利加の三大洲は是に次なり。此三大洲の内にも、欧羅巴大洲を見習、外国交易する国々もありといへども、其道を未だ全くせず。此故に自国の宝貨を悉皆欧羅巴大洲の為に尽なり。浅臺なる次第ならず哉。(中略)

物毎に内伝・外伝といふ事あり。内伝は眞法、外伝は朝制に縁てなり。是がはきとせざれば、末が末程衰微して、士民に間引するの悪癖発起し、次第に士民を減少する者なり。其本を推察するに、古昔年久く戦国にありし時は、殺伐を以事としたる風俗ゆへに、面々互に雌雄を争ひ、剛弱を以身の浮沈ありし時なれば、他の美を語れば臆気萌すといふて、陣中の瑕瑾とせしなり。

② 当時とても未だ古風を失はず。是をも顧みず、妄に他の美を語るは不遠慮に似たれども、人情を推量するに、欧羅巴といへども左迄の事もあるまじ。杯思ふ人多ければ、いつがいつまでも此儘にありては、日本の金銀銅の限は、悉皆欧羅巴へ脱行ん事は眼前なれば、是を敷て欧羅巴の事を述るなり。看ん人其意あれかし。

【本多利明「交易論」を一部改変】

(1) 「交易論」が著された頃、日本の社会情勢(※学問的環境も含む)はどのようなものであったと考えられるか。本多利明の主張を踏まえて説明しなさい(五行程度)。

(2) 傍線部(ア)「当時とても未だ古風を失はず」とはどのような状況を指しているか。史料全体の内容から具体的な意味を補いつつ説明しなさい(五行程度)。

(3) 殖産興業政策が推し進められた明治時代の貿易論と比べると、本多利明の「交易論」にはどのような特徴が見出せるか。共通点・相違点の双方から論じなさい(一〇行程度)。

以下の答案用紙は、下書き用に使用してください。

